

好む、骨炭、
元年

3 カード取り競争をする。

- カードの配列
- ゲーム

・この漢字は多いとか、いろいろなどという
意味がありました。何という漢字ですか。
・フルトンは（ ）を
発明しました。
・12画の漢字で……はじめる
という意味がありました。
・布でまわりをおおう意味で
（ ）の字があるね。
・わたしはふねの指揮者です。
・幕を使った字でほかの熟語に
どんなものがあったか。

4 書き取り練習をする。

5 学習のまとめと次時の予告をする。

- 漢字カードをグループごとに準備させる。
- 取る機会を多くするために、カードは2枚ずつ用意する。
- 問題は教師が中心になって与えるようにする。

- 漢字練習表に書いたものを中心に出題する。

- ゲームが終わったら各グループの上位入賞者をたたえ、今後のはげましを与える。

- 指名された者は黒板に書き、他の子どもはノートに書く。
- ヒントを与え、自信を持たせるようにする。
- 漢字練習の足りないことばを補わせる。

⑤ 尺度の設定

仮説を実証するにあたり、前述の授業を行った
り、次の観点から子どもの変容をみつめ、事後テスト
の正答率、は持率を分析し、考察を加えて仮説の有効性を
みることにする。

ア 事前テスト、事後テストは同一問題とし、一定
期間後の定着をみるための問題はテストに用いら
れた漢字を発展的にあつかう。

イ 事前テスト、事後テストに用いる漢字は新出漢
字を使った熟語（自己、幕府、蒸気、指揮、骨、
通訳、死亡、諸国、就任、創刊）とし、その正答
率をみる。

ウ は持テストの問題の内容は、事後テストの順序
を変えて、用法を別にしてみる。

(2) 検証と考察

① 授業の考察

ア 漢字指導について

これまでの漢字指導では、指導計画の初めで取
り上げた漢字ひとり調べの段階で得た読み方、書
き方、音訓読み、用法等が文章の読解を通じて確
かなものとして身についたかどうか、効果を確か
めないままに終わっていた。

検証授業では、読み方、書き方ばかりでなく、
漢字の持つ意義や用法をさらに確かなものにする
ために視覚にうったえたり、ゲームを取り入れる
ことによって応用力をつけさせることに力点をお
いたことは効果があった。

イ ひとり調べについて

説明文、伝記文のような教材では授業例のよう
な方法で進めることが多い。子どもはひとり調べ
にはなれており、能力のある子どもは家庭でもや
ってくる。このような子どもは机間巡視の折にノ
ートをみてやったりした。漢字練習表にはみんな
が本気になって取り組み、意欲がみられたし、O
HPを利用して視覚からとらえさせたりすること
も学習に役立った。

ウ 漢字カード取り競争について

興味を引きつけることにより、子どもの学習意
欲を高めることができた。子どもがカードをよく
見たり、話を聞いて判断したり、時には発表したり、
集中的に学習を進めることによって学習に積極
的に参加する姿がみられるようになった。

※ 子どもの授業に対する感想

- ㊦ 覚え易かったので楽しく学習できた。
 - ㊧ 熟語さがしをもっとやりたかった。
 - ㊨ 字典づくりはおもしろくできた。
 - ㊩ 何度も練習したり、使わなければ覚えにくい
ことがわかった。
 - ㊪ 覚えるには短文づくりをした方がよい、な
どの反応があった。
- これらの反応からもわかるように、「はやく」